

会 議 録

会議名	令和2年度 まちづくり協議会 分科会 空き家移住定住協議会（第1回）		
1 開催概要			
日付	令和2年7月7日（火）	時間	午前10時30分～12時00分
会場	南知多町役場3階 委員会室	出席数	18名
2 あいさつ			
あいさつ	山本会長：お忙しいところお集まりいただいた。まちづくり協議会の会長の山本嘉秀です。人口減少によるまちづくりの担い手不足の解消などを目的として分科会が設置された。有意義な会としたいので忌憚のないご意見を頂戴したい。		
3 協議事項			
(1) 空き家移住定住協議会設置要綱について【資料1】			
報告内容	<p>資料1 空き家移住定住協議会設置要綱について事務局が説明。設置の目的や分科会で協議する事項などの詳細を説明した。また、役員の説明において、当分科会の会長は、南知多町まちづくり協議会の会長をもって充てることを説明。併せてまちづくり協議会の副会長 二宮委員が副会長として選任され、承認された。なお、新型コロナウイルス感染症まん延防止の観点から2度の分科会が中止されたことから、書面会議にて事前に分科会の発足についての承諾を得ておりましたが、役員の選任を同日実施し、令和2年4月1日に設置要綱を施行することで承認された。</p> <p>○まちづくり協議会 分科会 空き家移住定住協議会で協議される事項</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 地方創生推進交付金を活用した「空き家利活用を核とした移住定住促進プロジェクト」の効果検証(2) 地方創生推進交付金を活用した「空き家利活用を核とした移住定住促進プロジェクト」の事業計画の審査(3) まちづくりの担い手不足の解消に資するための事業計画の作成・検討(4) 移住定住者（希望者を含む。）や関係人口が地域活動に積極的に参画できる事業の検討(5) その他地域のまちづくり事業の推進に資するための新たな事業の検討 <p>※会議時間短縮のため、添付の名簿にて各委員就任のあいさつとした。</p>		
質疑・意見	質疑・意見なし		

4 報告事項

(1) 令和元年度南知多町空き家活用による移住定住促進事業実績について【資料2】

報告内容	<p>平成31年（令和元年度）事業実績について資料に基づき説明 なお、まちづくり協議会 分科会 空き家移住定住協議会で協議される事項のうち、 (1) 地方創生推進交付金を活用した「空き家利活用を核とした移住定住促進プロジェクト」の効果検証として、同プロジェクトの骨子となる下記の事業報告、実績報告及び関係書類について報告をおこなった。</p> <p>○2019 地方創生推進事業「空き家を核とした移住定住促進プロジェクト」事業実績</p> <ul style="list-style-type: none">(1) まちづくり協議会運営費補助金実績(2) まちづくり協議会事業費補助金実績(3) 地域振興等支援事業補助金実績(4) 空き家活用による移住定住促進事業<ul style="list-style-type: none">① 委託契約書② 業務完了届③ PR用品（消耗品費）④ 空き家利活用セミナー（地区別セミナー）⑤ 空き家利活用セミナー（全体セミナー）⑥ 移住交流支援機構主催の移住・交流&地域おこしフェアへの出展⑦ 名古屋市内での移住交流フェアへの出展⑧ 移住体験プログラムー泊2日移住体験ツアー⑨ オーダーメイド移住体験ツアー⑩ 空き家マイスター等による空き家利活用モデルの検討⑪ 空き家のリフォームモデル⑫ 空き家の利活用推進体制モデルの検討⑬ 関係人口創出事業（アンケート調査）(5) 空き家バンク物件登録促進業務<ul style="list-style-type: none">① 空き家バンク物件登録促進業務委託契約書② 空き家アドバイザー派遣業務委託契約書③ 令和元年度宅建サポート委託実績④ 空き家バンク【累計】年度別実績
質疑・意見	質疑、意見なし
<h3>(2) 令和2年度南知多町空き家活用による移住定住促進事業予算及び事業計画について【資料3】</h3>	
報告内容	<p>2020 地方創生推進事業「空き家を核とした移住定住促進プロジェクト」事業計画として、同プロジェクトに係る令和2年度南知多町一般会計歳入・歳出予算を示し、同事業の概要説明をおこなった。なお、同プロジェクトの主たる事業である「空き家活用による移住定住促進事業業務委託仕様書」をお示しし、空き家活用を核とした移住定住を更に進めるため、今年度から関係人口の創出と空き家の利活用とDIYによる移住</p>

	<p>者と既存住民のネットワーク体制の構築を仕様書に新たに加えたことを説明し、委員の皆さんから事業実施に関しての意見や要望等をいただいた。</p>
<p>質疑・意見</p>	<p>・空き家バンク補助金について、移住定住を目的として南知多町内の空き家の改修費などに対する補助金を支出することは良い事業だとは思いますが、幅広くこの事業の周知、広報はどのようにおこなっているのか。</p> <p>→ 一部の補助金については廃止をし、令和 2 年度予算に掲載しているものについては経過措置として残しているものもあります。周知の方法については、広報「みなみちた」や町HPでの周知、毎年度当初に発送しております納税通知書（約 12,000 通）に同封し、所有者等に空き家バンク制度と同制度の補助金の周知をおこなっています。</p> <p>・先ほど今年度の事業で空き家の見守り体制の構築という話が出た。ヤマト運輸と空き家の見守り社会実証実験の話も出されたが、実験の詳細と結果について教えて欲しい。</p> <p>→ ヤマト運輸が空き家の見守り事業の社会実証実験を実施するに当たり、空き家率県内トップの本町にて、空き家の実証実験をおこないたいという話をいただき協定を締結した。事業の内容については、メール便を配布している「メイトさん」という方がそれぞれの地区におり、宅配事業の縮小（アマゾン）により業務が縮小傾向にあることから、空き家の見守りサービスが新たな事業として成り立つかの検証を本町で実施したものです。なお、協定により町が実施した事務の内容については、納税通知書（12,000 通）や町のHPでの実証実験の紹介、空き家バンク制度で物件登録している方に個別にメール配信をおこない広報などを受け持ちました。ヤマト運輸の実証実験への参加方法ですが、ウェブ上で所在地等の物件情報を登録していただき、実際にヤマト運輸のメイトさんにより家屋の外観の調査や敷地内の状況等の報告書に写真を添付し回答する方法がとられました。現在はヤマト運輸内において、今回の実験結果やアンケート調査の結果が精査され、事業としての実施の可否が判断されることとなっております。</p> <p>※今回のヤマト運輸が実施した実証実験についての詳細は、別途、委員に配布した。</p> <p>・首都圏人材確保支援事業費補助金とはどういった補助金なのか。</p> <p>→首都圏への過度な人口の一極集中の解消などを目的として、愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき県内の市町村が参加するものです。支援金の額につきましては、2 人以上の世帯の場合は 1 世帯当たり 100 万円、単身の場合は 60 万円となっております。令和元年度の首都圏から愛知県への移住者の実績につきましては 0 件という結果となっておりますが、本町においても首都圏からの移住定住者の獲得を目的として空き家活用による移住定住促進プロジェクトを推進するうえでも今後も参加していくべき事業であると考えています。移住定住に必要な「仕事」についても県の起業支援やマッチングサイトが併設されております。</p>

今後は新型コロナウイルス感染症のまん延により働き方や余暇の過ごし方、ワーケーションなどの発達により首都圏からの移住者希望者は多く存在すると考えておりますので、委託事業内で必要な支援策などの検討を実施していきます。

・移住定住を決めるとき、移住してからも安心して暮らしていけるよう「仕事」などの情報が欲しい。また、空き家を利用して移住した後の対応についても地域振興課が担って欲しい。

→町まちづくり協議会の委員が空き家バンク相談員として町内の空き家購入し、移住してきた方々の相談に乗るような体制もとっています。また、仕事については役場の産業振興課やハローワーク、商工会でも斡旋しています。

・空き家を活用した移住については仕事もそうだが、地域に馴染むことができない、田舎特有の距離感に戸惑う人もいるかと思います。そういったことを無くすためにもワンクッション置ける施設として、1か月限定のお試し居住施設の提案をしたい。

→期間限定のお試し居住については空き家活用による移住定住促進業務委託の中で検討をしていきたいが、空き家バンク制度自体への登録が少なく、選択肢として苦慮している部分も多いです。このため、皆さんからも地域の空き家についての情報の提供をお願いします。

・空き家バンク制度の【累計】年度別実績において、利用したい世帯（人）が令和元年度末で124世帯（人）あるとの説明があった。中段に「取消」43とあるが、取消とはどういったものなのか。

→利用登録の取消については、2年度を経過した年度末を以て利用者登録の取り消す旨の規定を設けております。移住を希望される方については、このような制度のある様々な自治体に登録をしており、自ら取消しをしていただけないためこのような規定を設けました。取り消す場合については、郵送にて取り消す旨を伝え、再登録する場合については、再申請をしていただくこととなります。

・移住者がDIY講座により新たな住民相互のコミュニティづくり、まちづくり事業による地域のコミュニティへの参加を促すきっかけを作ってもらうことは良いと思う。移住してきて子どもを通じて地域に入っていくことができたが、移住する場合には知り合いがいない不安は必ずある。特に若い人は地域との交流の機会もあると思うが、高齢又は退職後の移住者は地域の集まりに参加しにくいと思う。

→この事業の位置づけとしてまちづくり協議会の事業が同プロジェクトに含まれているのは、移住者が地域に早く溶け込めること、地域の担い手として移住者の活動の場の提供、空き家の利活用の推進などをターゲットにしたものであり、今年度から新たに関係人口（観光以上、移住未満の地域に関わりを持つ人）も視野に入れた取組を始めることとしています。

・一部の地区で移住者（空き家バンクを利用していない移住者）が地区の清掃などの行事、ごみの捨て方や区費の徴収などの問題を起こしていると聞く。

→バンク制度以外での移住については、第一に区長さんとの接触となる。他の自治体では受け入れる地域で面接を実施しているところもある。南知多町で面接まではしていないこと、バンク外で購入した移住者についても、移住者同士のコミュニティに積極的に参加していただけるようなネットワークの構築を目指したい。

・移住者にとっては移住してからの生活が大切で、生活はとても不安なので、地域の求めている求人を移住者への求人マッチングできるような仕組みが欲しい。

→雇用については産業振興課が担当課となるため、この場で即答はできないが、調整をしていきたい。

・移住定住のハードルを下げるには、係ではなく「仕事」と「住まい」が一体化した課の創設が必要となると思う。

→まちづくり協議会長が町執行部に提案するのか？

・地域の問題・課題を洗い出した方がこの事業は進むのではないかと。また、例えば地域の産業のターゲットやまちづくりを進めるうえでの問題点などをはっきりとさせると問題が分かりやすいのではないかと。

→地域の課題等についてはまちづくり協議会で地域課題の洗い出しをおこなう。解決に向けて事業、取組みを進めていきたい。

・オーダーメイドツアーについて、移住者にとっては移住後の仕事が重要であり、どのようなあり方で開催をしているのか。

→JOIN などの移住定住フェアにて、南知多町への移住を考えている方をターゲットとして、南知多町での仕事、地域の特徴、空き家（住まい）の状況など、移住希望者が移住に際し重要だと考えている項目をピックアップして場所の選定をしています。移住後の仕事と住まいが想像できるよう、例えば資料の 63 頁から報告書が付けてあるが、農業をしながら南知多町に住みたいという人であったが、農業未経験者であったため、地域で農業を学びながら働くことのできる事業者の紹介や地域でマンパワーの必要な仕事場の紹介なども行いながらオーダーメイドツアーを実施して、南知多町への移住が想像できる内容として取組んでおります。

5 その他

意見交換

・年に 1 回の開催ではなく移住定住については、南知多町にとっては必要となる事業であることから、こういった会議の開催の機会を定期的に設けて欲しい。

→ご参加の皆さんにはこの協議会で事業の効果検証などしていただくためにお集まりいただいています。移住者の皆さんに協議会に入っていただいたのは、地域のまちづくりへの積極的な参画や地域の課題の解決について、移住してきた皆さんからの積極的にご意見を事業に反映をさせるためです。人口減少の著しい本

町においては、移住定住の促進が重要な施策となることから、今後も必要に応じてこの会議を開催させていただき、事業の実施に際しても調整をおこなっていききたい。

・協議会に移住者の皆さんにも参加していただき、移住に際し何が必要なのかなど、生の声を聴くことができた。今後の事業に反映して取り入れることは大変いいことだと思う。

→昨年度の空き家利活用を核とした移住定住促進プロジェクトの事業実施に際しては、南知多町に移住してきた皆さんにも積極的に事業に関わっていただいた。南知多町に移住を希望する方たちの先輩移住者としての意見や生活、地域との関わりなどをお話していただいた。このことによって移住希望者は南知多町への移住についてより想像ができたと考えています。今年度から新たにスタートする事業内容に、D I Yという移住希望者の多くが求めているキーワードにより、自分のライフスタイルに合った空き家の改修を通じた移住者同士のネットワークの構築にも着手したい。もちろん住民の皆さんにも参加していただく。昨年度の事業に参画していただいた移住者の皆さんについては、移住者同士のコミュニケーションをととても大切にされていて、定期的に持ち寄り会（夕食会）を開いているという事例もある。移住してきた皆さんが地域で孤立しないような取組の一步として、そういったネットワークも活用していきたい。

・移住してきて地域の皆さんには大変良くしてもらっている。私は子供を通じて地域の中に溶け込むことができた。そういった移住者同士、移住者と既存の住民とがつながる事業は移住してきた人にとっては心強い。

→まだまだ手探りの状態ではありますが、皆さんにもご協力をお願いしたい。移住者の皆さんには各種まちづくり協議会への参画も積極的にこなっていただけるよう今後も誘導をしていきたい。